

目指す学校像	「一歩前へ『誠意ある』南浦和中」 生徒一人ひとりの自己肯定感を高め、それぞれの自己実現に向け、自身で歩みを進められるようにする生徒を育成する。
--------	--

重点目標	1 読解力の向上を目指した「書き、まとめ、伝え合い、発表できる」生徒の育成 2 「ほめて育てる」(認め、励まし、支える)教育を実践し、生徒の自己肯定感を高める 3 保護者、地域との信頼関係のもと、コミュニティ・スクールとしての方策の共有と実施 4 一人ひとりがもてる力を発揮する、誰もが居心地のよい【Well-being】学校をつくる教職員研修の充実
------	--

※重点目標は4つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。
※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

学 校 自 己 評 価								学校運営協議会による評価	
年 度 目 標				年 度 評 価				実施日令和 年 月 日	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校運営協議会からの意見・要望・評価等	
1	【現状】 ○全国学力・学習状況調査や市の学習状況調査では、国語、数学ともに全国、市平均と比べ概ね良好な結果である。 ○国語に関しては、学習指導要領の領域別を見ると全国平均を下回っている領域がある。特に、「書く能力」に課題があることが分かり、自分の考えをまとめたり、発表したりするなど、「言葉を形にする力(表現する力)」を育てる必要があると考えている。 【課題】 ○全国学力・学習状況調査の結果から分析すると、「文章等に表れているものの見方や考え方を捉え、自分の考えを持つ」ということが苦手で、無解答率が2割と高い。 ○大人や友人との会話やコミュニケーションなどは好んで行うことができるが、自分の言いたいことを端的に話したり、伝えたりすることが苦手であるという生徒、自分の考えを書いたり、まとめたりすることが苦手であるという生徒の割合が多い。	・読解力の向上に向けた情報端末の活用・授業改善 ・学びの自律化に向けた情報端末の活用・授業改善 ・学ぶ楽しさを実感できる「総合的な学習の時間」の実施	①全国学力・学習状況調査の結果を基に、読解力の向上を目指し、「書き、まとめ、伝え合い、発表できる」をテーマに公開授業(年一人2回)を実施し、教員のキャリアステージに応じた授業改善を行う。 ②全国及び市の学習状況調査の最新の結果を基に、読解力に関する状況を分析するとともに、市教委の学力向上カウンセリング研修を受けることでより効果的な手立てを検証、生徒の読解力向上を図る。	①年2回の公開授業を全教員が実施することができたか。また、生徒個々の能力に応じた「書く能力」の向上を図るために、短文や作文、感想文等の「書く、まとめる」ことを、授業に効果的に取り入れることができたか。 ②市教委の学力向上カウンセリング研修を実施し、読解力の向上を目指した、次年度への手だての検証ができたか。	①定期テストの時期を目的に、全生徒に対し、学習・取組状況を基に学習相談を行うことができたか。 ②STEAMS TIME 実施後のアンケートで、「STEAMS TIME は楽しい(探求的な学びになった)」の肯定的な回答を9割以上の生徒から得ることができたか。				
2	【現状】 ○コロナ対応の長期戦が余儀なくされ、心的不安やストレスを抱えた長欠生徒が多く、希死念慮、自傷行為のある心配な生徒が複数名いる。 ○心と生活のアンケート結果からも、「解決スキル」「信頼自己」の得点が低く、要面談に該当する生徒が各学級に複数名点在し、学校全体で生徒の自己肯定感を高める手立てを取ることが必須である。 【課題】 ○生徒一人ひとりの状況をていねいに把握して、生徒・保護者への初動・初期対応をスピーディーかつ組織的に行うことに課題が残る。 ○複数の生徒への対応、重要・重大事案の対応を同時期に行うことを迫られ、教職員が疲弊している。	・危機管理の徹底と初期対応とスピーディーで組織的な対応 ・それぞれの生徒・保護者の思いを受け止め、寄り添い、誠実に対応する支援体制の実働	①「ほめて育てる」(認め、励まし、支える)声掛け、指導・助言の在り方を全教職員で共有し、実践する。 ②特別支援ネットワーク連携協議会を活用し、障害等による学習上、生活上の困難がある生徒に対しての適切な支援方法、具体的な教職員の言動について研修を行う。	①学校評価に係る生徒、保護者アンケートの関連する項目で、肯定的な回答を9割以上の生徒・保護者から得ることができたか。 ②特別支援ネットワーク連携協議会を活用し、講師を派遣いただき、生徒に対しての適切な支援方法、具体的な教職員の言動について研修をおこなったか。	①「ケース会議の実施、該当生徒の支援計画の作成が適時適切なタイミングで実施できたか。また、記録等が適切にフォルダ化されているか。」の教員アンケート項目で、肯定的な回答を9割以上の教員から得ることができたか。				
3	【現状】 ○昨年度、本校学校運営協議会を立ち上げ、目指す生徒の姿について熟議を積み重ね、「自己肯定感が低くなる」とが否めない昨今の状況下で、どのように生徒を元気にしていくかについて共有した。 【課題】 ○昨年度は、本校の実態やいわゆる校則改革について情報提供することにとどまった。 ○保護者等からの情報発信、情報開示、情報公開を望む声が多く寄せられており、家庭、地域から「開かれた学校」としての評価が低い。 ○目指す生徒像の実現に向けた方策を定め、学校、家庭、地域が連携して、具体策を検証・実践する必要がある。	・目指す生徒像の姿を地域で共有するための教育活動の公開 ・目指す生徒像の実現のための、学校、家庭、地域の連携と具体策の検証・実践	①学校ホームページに、学校運営協議会及びSSNの情報を発信するページを作成し、「目指す生徒の姿」を広く共有できるようにするとともに、生徒の活動の様子を掲載し、2週間に1回程度の更新を行う。 ②地域の方に教育活動を観ていただき、学校の教育活動や生徒の成長に係る関心を高める。	①2週間に1回程度のホームページの更新を行うことができたか。また、学校自己評価に係るアンケートで「コミュニティスクールの一員として目指す生徒の姿を共有できた。」の肯定的な回答を7割以上の保護者から得ることができたか。 ②学校自己評価に係るアンケートで「生徒の成長に係る関心が高まった。」の肯定的な回答を7割以上の保護者から得ることができたか。	①学校、家庭、地域で協働した行事等を年3回以上実施する。(おもしろサマースクール、あいさつ運動、除草・清掃活動等) ②「南中コミスク成長プラン」の策定を行う。				
4	【現状】 ○新たな学びのスタイルの中心となる情報端末をはじめとしたICTの活用方法について、研修主任、エバンジェリストが中心となり研修を重ねてきた。 ○公開授業を中心に据えた研修を進め、生徒の読解力向上を目指している。 【課題】 ○ICTの活用について、教員間で取組の差が見られる。誰もが授業実践に活かすことができる職場環境づくりが求められる。 ○デジタル教科書の運用やスタディサプリの活用について、教職員の自己研鑽と教職員間交流(教科会等)が必要である。	・一人ひとりがもてる力を発揮する、誰もが居心地のよい【Well-being】学校をつくる「ONEチーム研修」の実施	①デジタル教科書の運用(G・Sと音楽)、ICT活用の教員間格差を改善、スタディサプリの効果的な運用のために、教頭を座長とした「ONEチーム研修」を実施する。 ②年間を通して、全教員がICTを用いた公開授業を1回以上実施する。(※「書き、まとめ、伝え合い、発表できる」をテーマに行う年一人2回の公開授業(年一人2回)のうち、1回以上はICTを用いた実践を行う。)また、授業者と参観者は、その授業後の振り返りを有効にするための協議や教科会を実施する。	①全ての教員が日常的にICTを活用する状況になったか。また、「ONEチーム研修」を実施することができたか。 ②全教員がICTを用いた公開授業を1回以上実施することができたか。また、授業者と参観者は、その授業後の振り返りを有効にするための協議や教科会を実施することができたか。					